

研究課題名：ヒト胎盤での villitis of unknown etiology (VUE)における滞在型メモリーTリンパ球の病理学的解析

研究概要：

滞在型メモリーTリンパ球はヒトの感染防御などに対する免疫反応で重要な役割をもつリンパ球の最終活性化細胞であり、末梢組織に滞在する特徴をもつ。VUEは胎盤における原因の不明な慢性炎症であり、子宮内胎児発育遅延あるいは胎児死亡につながる病気である。VUEにおける滞在型メモリーTリンパ球の病理学的解析はまだなされていない。その解明をおこなう。

本研究は非侵襲型観察研究であり（患者へのあらたな負担なし）、後ろ向き研究である。ゲノム解析は含まれていない。

研究機関・研究者：

水戸済生会総合病院 病理診断科 大谷明夫（顧問医師）

水戸済生会総合病院 産婦人科 藤木 豊（副院長）

近畿大学医学部免疫学教室 宮澤正顕（教授） 2023.4.1より（株）新日本科学・TRカンパニーTR事業部 経鼻粘膜ワクチン研究開発センター・センター長

研究対象：

水戸済生会総合病院にて2019.1.1から2023.4.1までの間において、出産患者の胎盤で、villitis of unknown etiology (VUE)の診断がなされた検体が対象である。患者への新たな負担は存在しない。

研究方法：

上記の胎盤の保管されている病理標本（これは長期保存が義務づけられている）をもちいて、免疫染色をおこない、滞在型メモリーTリンパ球を同定し、胎盤での分布を調べ、VUEの所見と対比させる。（この染色は水戸済生会総合病院で実施する。解析は研究者全員で行われる）

対象患者の個人情報保護について：

研究対象検体はすべて匿名化されて研究に用いる。研究成果を専門学会・専門誌に発表する場合は、患者の個人情報は完全に保護される。

本研究への問い合わせ先：

水戸済生会総合病院・病理診断科・顧問医師 大谷明夫